

第285回  
株式会社テレビ新潟放送網  
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成24年2月27日（月）午前11時より
- 2 開催場所 テレビ新潟放送網本社会議室
- 3 委員総数 8人 出席委員8人

出席委員

豊口 協	委員長	大矢 純一	副委員長
笠井 明	委員	吉原 浩	委員
碓井 真史	委員	大久保 千春	委員
田村 明子	委員	尾畑 留美子	委員

会社側出席者

代表取締役社長	前川 磐
専務取締役（報道・制作・国際担当）	奥野富士郎
常務取締役（営業・事業・編成担当）	永原 良太
編成局長 兼 放送番組審議会事務局長	駒形 正明
報道制作局長兼報道部長	稲田 裕之
編成部長	中川 保彦
制作部長	小木 裕介
合評番組プロデューサー	羽田 朗
事務局	海津 智洋 紫竹 聡子

## 4 議 題

### 1) 番組合評

#### 「天使の歌声 全盲10歳少女 被災地へのメッセージ」

[放送 : 2011年12月30日(金) 17:20~17:50]

(説明 : 番組プロデューサー 羽田 朗)

### 2) 会社報告

①1月の視聴者の意見。 (報告 : 番組審議会事務局)

②講じた措置、公表など定例の報告等。(報告 : 番組審議会事務局)

### 3) その他

## 5 審議の概要 (委員の意見)

会社側から、この番組は生まれつき目が見えないというハンデを背負いながら大人顔負けの歌声とピアノ演奏をしている少女がいるという情報を2年前に得てから、ニュースの中で何度か取り上げてご紹介してきた10歳の少女佐藤英里(ひらり)さんの活動について、今回ひとつの集大成という位置づけの番組として制作したものであること。またこの番組放送後も彼女は被災地を訪問したり、演奏会を開くという活動を続けており、これからも彼女と彼女の活動を取材し続けていくつもりであることなどを報告した。

●英里(ひらり)さんの歌声は番組タイトルの「天使の歌声」というより力強い、前向きな歌声だと思った。

●全盲の英里さんのことはニュースで知っていたが番組を見ていて何に惹かれているのか考えた。障害を持っていることや少女の歌声ではない何か。人として心の中から素晴らしいなあと思っていることに気が付いた。

●お母さんが凄いなと思った。10歳の娘に対してひとりの大人として対等に接しているのが素晴らしいと思った。

●ゴールドコンサートの存在はこの番組で初めて知ったがこのコンサートのステージに立つことを目指して頑張っている人達がいることも初めて知った。知ってよかった。

●英里さんが目が見えないことをまったく言い訳にしないで健常者以上のパフォーマンスをするので周りが驚くのだが、自分の思いや考えをきちんとした日本語で伝えられる10歳だということでも感心した。

●お母さんは厳しいが、10歳の女の子が今までのことに感謝し被災地にも思いを届けたいと考えることができるのは、お母さんが彼女にいろんなことをきちんとお母さんの言葉で伝えていて、それを彼女が理解している結果なのだなと思った。

●お母さんは娘が目が見えなくてもひとりで周りの人ときちんと関わりを持って、自分のこれだと思える道に進んで行けるような力をつけさせるように小さい時から努力されてきたんだと思った。

●人生で頑張っている人はみんな素晴らしい。障害があっても無くても。一方で障害者の頑張りはわかりやすいという面もあるがこの番組では必要以上に「障害」ということを強調しすぎなかったのがよいと思った。

●番組の中心テーマが何なのかいまひとつ分からず、被災地と

の交流や被災地のメッセージがテーマだというのならもっと被災地の人たちの声を届けて欲しかったが、そうではなくて10歳の英里さんの成長の方がメインテーマなのだと思います。

●子育てという観点で番組テーマを考えることもできるが、こういう風に育てれば良いのだという構成ではない気がする。あの英里さんとあの母親との間の関係だからうまくいっているのであって、厳しく鍛え躰けているシーンのみをテーマとして受け入れるのは子育てテーマとしては違う気がした。

●障害のある人、或いはふるさとを離れて暮らす東日本大震災の被災者に留まらず、見る人すべてに印象に残る心温まる番組になっていたと思った。

●英里さんが10歳の同世代の女の子に囲まれているシーンが彼女の日常を良く映し出して良かった。

●英里さんとお母さんが自宅で衝突するシーンは、よく取材することができたと思った。取材する側と母娘との信頼関係が構築されていたからできたことだと思った。

●母娘の背景や環境について興味が湧いた。ナレーションなどで番組冒頭でさらりと触れてくれればと思った。

●これからの進学など様々な局面があると思われ、曲作りや歌声についても英里さんのこれからの是非継続取材して欲しいと思った。

●この番組は「ハンデを負うとともに驚異的な才能を持つ少女の活躍を紹介する」というテーマと、「東日本大震災の復旧復興はまだまだ続いていて被災者や避難者の支援はこれからも重要である」というテーマと、ふたつのテーマで出来ていて2本立てということではなく上手く二つのテーマが融合されて仕上が

っている秀作だと思った。

●お母さんの英里さんの歌についての評価はとても厳しい。「好きな歌を歌うということと、人のために歌うということは違うんだ」ということや、「コンテストはミスひとつ許されないという姿勢を英里さんに身につけて欲しい」というお母さんの思いが伝わってきた。

●母娘の会話のシーンで聞き取りにくいところがあり、もっと字幕スーパーで対応してくれれば分かりやすいと思った。

●全盲で子供で歌と演奏が出来る子が県内にも居ると知って驚いたとともに、歌声と演奏を聴いてこの子は凄いと思った。

●英里さんを取材するきっかけは何だったのか知りたくなった。番組冒頭で取材のきっかけについて簡単に紹介してくれればよかったと思った。

●被災地へのメッセージという大きなテーマはあるにしてもやはり中心テーマは英里さんのそれまでの生き方とこれからの夢に向かっての生き方の方だと思う。全体を通して英里さんの強い生命力とお母さんの逞しさというのが良い意味で伝わってくる素敵な番組だったと思った。

## 6 会社側の報告

### 1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

1月…… 167件。

### 2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成24年1月30日)から昨日(平成24年2月26日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

## 7 審議機関の答申または意見（前回審議会）に対してとった措置

- 1) 前回、第 284 回審議会では「『山本五十六』映画公開記念特別番組 どーする！？日本の未来～戦争と震災を乗り越えて～」を審議いただきました。委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。
- 2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧しました。

## 8 今回の第 285 回放送番組審議会の公表

- 1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。
- 2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。
- 3) インターネットの T e N Y ホームページに議事概要を掲載します。

## 9 参考事項（委員への配布資料）

- ・ 1 月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・ 1 月の単発番組制作一覧
- ・ 民間放送新聞（2/3, 13, 23 号）
- ・ BPO 報告（意見交換会報告書「東日本大震災報道取材現場からの証言」、No. 106 号）

以上